

令和 3 年度 大阪市立水都国際高等学校 運営に関する計画
年度評価 総括

大阪市立水都国際高等学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において英語を用いた授業を実施している。

しかしながら、入学してきた生徒の英語力の差は大きく、教員間で英語に課題がある生徒のサポート体制の構築を進めてはいるが、こうした課題をどのように解決していくのかが喫緊の問題である。また、多様なバックグラウンドを持つ教職員と本校の教育理念を共有し、生徒たちと共に学校の文化を創っていく取り組みを進めている。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学校行事等に地域の方に参加していただいたり、地域の催し物に生徒が参加したりと、地域との連携ができていない。ポストコロナを見据え、学校内部の配信を行ったり、地域の方々からの情報を集めるような仕組みを構築していく。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校への登校を控える生徒・家庭に対し、学校で学んでいる状態と同じレベルの教育を実践していくために、教員の指導力の強化のための研修を定期的に実施していき、様々なリソースを活用した教育活動が展開できるように充実を図っていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

令和 4 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 90% にすることをめざす。

令和 4 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 90% をめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

令和 4 年度の大阪市英語力調査における、高等学校卒業段階での英検 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 80% 以上にする。

令和 4 年度の大阪市英語力調査における、高等学校卒業段階での英検準 1 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50% 以上にする。

令和 4 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 90% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。

校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。

年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

令和 3 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70%にすることをめざす。

令和 3 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 70%にすることをめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

令和 3 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。

令和 3 年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分が参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。

令和 3 年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。

令和 3 年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。

グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) の認定を受け、教育を実践していく。

グローバル探究科として、IB のカリキュラムと学習指導要領とが両立するように、教育課程を編成し、実践していく。

英語力の指標として、CFER の B2 レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の伸長を目指す。

各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80%以上にしていく。

3 本年度の自己評価結果の総括

開校 3 年目ということで、1 期生が無事に卒業を迎えることとなった。これとともに、IB コースの生徒もコース在籍生徒の 75%がディプロマを取得することができた。大学進学についても、年度当初の心配をよそに、一定程度の合格実績を出すに至った。これには、高校 3 年生の学年団と授業担当者の成果である。

2 期生においては、1 年次にトビタテ留学！ジャパンの奨学金を獲得した生徒が、新型コロナウイルス感染症により渡航できない状態ではあったが、奨学金をもらわずに自費で留学するなど、自己実現に向けた動きが活発となっている。

3 期生では、IB を目指しコースに入る生徒も増えつつあり、学年としても進学に意識を持ちつつ、様々な活動に取り組み一人一人が成長している。

一方で、年度当初より課題となっていたマナーの問題については、この 1 年間かけて Well-Being 部を中心に、対策並びに次年度に向けての取り組みを進めているところである。

また、様々な英語レベルの生徒に対し、一定以上の英語力をつけさせていくことについては、英語科を中心とし、学校全体で系統立てた教育にしていくよう、これまでの 3 年間を整理し、次にむけての計画を立てている。また、学校としても教員数等が定まってきたことから、英語力を定性的に測るシステムを、英語科と進路指導部でまとめなおしており、次年度以降は各学年における英語力の目標達成についてより追究していくことができるように改善していく。

大阪市立水都国際高等学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 1 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 2 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 3 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 4 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 5 令和 3 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70%を目指す。 6 令和 3 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 70%をめざす。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○ 防災・減災教育の推進 南海トラフ地震を想定した地震及び津波に関する知識を深め、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を養う。区と連携した防災カリキュラム作成・活用の推進を行う。 指標 ・火災・震災を想定した防火訓練、防災訓練をそれぞれ年に1回実施する。	B
取組内容②【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○ 安全教育の推進 安全（防犯）に対する心構えなどの指導を計画的に、継続的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に理解できるようにする。 指標 ・インターネット、SNS等に関するオリエンテーション、継続的指導を実施する。 ・不審者対応に関する講演会、または研修等を年に1回以上実施する。	B
取組内容③【施策2：道徳心・社会性の育成】 ○ 道徳・人権教育の推進 LEGO® SERIOUS PLAY®のメソッドと教材を活用したワークショップを通して、一人ひとりの個性を認め、自己表現のスキルを伸ばし、異文化理解を深めたり人権について考えるカリキュラムを作成していく。 ○ 社会性の育成 学校をとりまく環境、コミュニティとの関りを通し、生徒に水都国際高等学校の生徒としての適切な振る舞いや、行動指針を考え、学校・地域のコミュニティに発信していく。 指標 ・人権教育推進委員会を中心に人権教育・異文化理解についてのカリキュラムを作成し、実践する。 ・Well-Being 部と生徒会を中心に、水都国際高等学校の生徒・教員としての行動指針を作成し、周知・実践する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
● コロナ渦において、予定されていた実地の防火・防災訓練はできなかったが、オンラインを通して、南海トラフ地震及び津波に関する知識を深める授業を全学年で実施した。一方、登下校報告書や住之江区との連携が不十分であったため、その点を下半期において、取り組みを進めていきたい。(①) ● 全学年における特別活動や道徳の授業を通じて、インターネット、SNS の使い方やルールを学んできた。一方、コロナ渦ということもあり、不審者対応に関する講演会等を実施することができてきないため、下半期においては、講演会またはそれに準ずる取り組みを進めていきたい。(②) ● 道徳・人権教育の推進について、高校2年生に対して LEGO® SERIOUS PLAY®のメソッドと	

教材を活用したワークショップを授業の中で実施し、全員が公平な場の形成について学んだ。また、社会性の育成については、水都国際高等学校の生徒としての適切根振る舞いについて、Well-Being 部を中心に、生徒・教員の有志で、詳細な指針作りに取り組み始めたところである。

次年度への改善点

概ね達成できているが、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の周期的な拡大により、通常の学校生活をなかなか送ることができず、宿泊行事については全く行えていない。そのような状況の中で、不登校になる生徒については、オンラインによる授業配信を通して、学校に登校することが難しくなった、足が向きにくくなった生徒は、一定数見受けられた。様々なことがオンラインで開催できるようにはなったが、一方で、対面で行う教育活動の意義や必要性、生徒への影響について、昨年にも増して考える機会の多い1年であった。

また、新型コロナウイルス感染症が拡大している時期でも、生徒は必要があれば登校してきているので、いかに安全にかつ生徒が必要とする場や環境を提供していくのかを今一度分析し、改善していく必要がある。

大阪市立水都国際高等学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 1 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。 2 年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。 3 年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。 4 年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。 5 グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の TOK、English B を中心に、IB 教育の要素を取り入れた実践をしていく。 6 グローバル探究科として、IB のカリキュラムと学習指導要領とが両立するように、教育課程を編成し、実践していく。 7 英語力の指標として、CFER の B2 レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の伸長を目指す。 8 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80%以上にしていく。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策５：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○ 「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の推進 本校の教育理念である３Ｅ（Encourage, Engage, Empower）をもとに、社会に貢献する協創力をみがく。 指標 ・中高合同の教員研修を学期に１回以上実施する。	B
取組内容②【施策６：国際社会において生き抜く力の育成】 ○ 英語教育の強化 英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において英語を用いた授業を実施する。 指標 ・授業を通して、英語を活用したプレゼンテーションを英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において実施する。	A
取組内容③【施策６：国際社会において生き抜く力の育成】 ○ 公設民営学校(国際バカロレア)の設置 自国の伝統文化に根ざした国際理解教育と外国語教育に重点を置き、授業では競争的な課題探究型学習を多く実施し、英語によるコミュニケーション能力、異なる文化や考えを理解し、多面的に深く志向する力、生涯にわたり学び続ける態度等を育成していく。 指標 ・グローバル探究科としての各教科におけるカリキュラムの開発、実践を行っていき、大阪市内をはじめ多くの教育関係者に向けた研修会や授業公開、体験授業を年に３回以上実施する。	B
取組内容④【施策７：健康や体力を保持増進する力の育成】 ○ 健康に関する現代的課題への対応 健康に関する指導を推進するとともに、手洗いの励行などに日常指導を実施し感染症予防に努める。 指標 ・健康に関する指導の推進、並びに感染症等、生活習慣病、環境問題、心の健康、喫煙、飲酒、薬物についての正しい知識を身につけさせる体験型の取り組みを年に１回以上実施する。	A
取組内容⑤【施策８：施策を実現させていくための仕組みの推進】 ○ 校務負担を軽減するための環境整備 ・ICTの活用による学校経営の効率化、高度化や学校情報発信の促進、授業資料並びに定期試験や授業内の小テスト等のPC上での実施を推進していく。 指標 ・会議資料、授業資料等の配布回収をネットワーク上で共有し、CBT(Computer Based Test)の形式での試験を年に１回以上実施する。	A
・教育理念の定着をはかり、その理解を授業だけでなく、すべての教育活動へ活かすこ	

とができるように、全教職員を対象としたワークショップを8月に実施した。(①) - 英語・理科・数学の授業において、英語を用いて授業を実施してきた。また、それぞれの教科において、英語による言語活動を推進してきた。(②) - 市内の教員を対象とした教員研修を継続的に実施することができている。また、1期生が11月に最終試験を受験し、1月2日の結果を待つ状況である。この2年間の経験をした教員を中心に、次年度に向けて、IB教育の体制を整えていく。 - 健康に関する指導について、定期的な生徒への注意喚起に加え、特別活動や保健体育科の授業を通じて、感染症予防に努めてきた。実際に、本校の新型コロナ感染者は、生徒で数名程度となっている。引き続き、健康に関する指導を行い、教育活動を充実させていく。(④) - 会議資料、授業資料等においては、グーグルクラスルームを積極的に活用し、昨年度以上に業務効率化をはかることができている。また、いくつかの教科においてCBT形式での試験を実施することができている。高等学校も1人1台端末の導入が迫り、各校から質問が増えてきている。(⑤)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 「主体的・対話的で深い学び」の推進については、3学期を除き教員研修を実施できた。アクティブラーニングの手法と同時に、ICTを活用した教員研修を実施した。研修では、各教科内、学年団、分掌内など様々な括りの中での情報交換を行い、これまでの2年間の実践を集めることにより一つに貴重な資料となった。 - 英語教育の教科については、中高それぞれで校外の英語スピーチコンテスト等への参加、受賞等があり、英語教育の強化が進んでいる。一方で、第二言語として英語を学ぶ方法・計画について、英語科を中心に見直しをはかっている。 - 対外的な体験授業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校での実施は実施できなかったため、オンラインでの授業の様子配信、並びに出前授業で本校教員が他の中学校に行き授業を行うということになった。 - 健康に関する現代的課題への対応については、2学期までは授業のオンライン配信と並行して実施していたため、新型コロナウイルスの感染者が出なかった。年が明けてオミクロン株が流行してからは、教員5名、生徒30余名が感染したが、黙食指導、手洗いの徹底、手指の消毒等を実践しているため、学内での濃厚接触者はほとんど出ていない。 - 校務負担を軽減するための環境整備については、積極的に取り組んできた1年となった。CBTの試験も実施してきており、様々な対応が可能となった。	

次年度への改善点

次年度は、より対面での授業が中心に戻ってくることを想定し、対面におけるアクティブラーニングの方法を、各教員で研鑽していったり、全体で共有していく時間を定期的に設定していったり、研修に参加した教員からの伝達研修の設定等を準備していき、効率よく教員の資質向上を目指していくことを計画していく必要がある。

英語教育の強化については、基礎事項と発展事項を教員側も理解し、基礎をしっかりと固めてから発展的な内容に取り掛かるよう計画の見直しが必要となってくる。実際に、数学においては、学習する言語の選択を設定し、生徒一人一人に合った形並びに求める学びを提供していく。

グローバル探究科としてのカリキュラムの開発を続けていくと同時に、特に IB に関して全教員が携わるのではなく、まずコアとなる教員で IB について熟知しそのメンバーが全教員に伝達していくという方針に変更する。そのため、IB 専属に取り組む校務分掌の作成を予定している。

健康に関する現代的課題への対応については、引き続き国や教育委員会の方針を確認しながら対応していく。

校務負担軽減のための環境整備については、次年度の組織形態を変更し、業務の明確化を進めていく。また、本校特有の日本人教員と外国人教員の責任や業務のバランスについても適正化していく。

大阪市立水都国際高等学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標 <教務部>

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

高校 2 年生からは、グローバルコミュニケーションコース、グローバルサイエンスコースと IBDP コースの 3 コースがスタートし、向こう 2 年間のシラバスの作成、人員配置の原案の作成を実施していく。また、新学習指導要領以降に向けた準備を、本格的に開始していく。

IBDP に関しては、科目サートフィケイトを含め、できるだけ多くの生徒が認定に向けて前向きに取り組めるように、環境整備を行っていく。

将来の大学入試制度の改変並びにそれに向けた e-ポートフォリオの運用等に関して、進路指導とともに、準備を進めていく。

中期目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

組織的な学校運営を行い、生徒一人一人の実情に応じた教育手法並びにオンライン学習環境における教育手法を研究し、国際社会で活躍できる人材を育成していく教育活動の根底を固める。

多様なバックグラウンドの教員に、日本の公立学校としての評価方法や、新学習指導要領の内容を周知し、次年度に向けて各教科で具体的な準備を進める。

教員 1 人 1 人が実践したい教育活動を実現させていくために協力することで、自らのアイデアを生き生きと具現化する教員の姿を生徒に見せ、生徒たちにも前向きにかつ戦略的に実現したいことに取組める環境をつくる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

各授業時数の確保並びに、生徒・教員にかかる負担を考慮しながら、年間行事予定を計画する。

コース選択説明会や、コースの体験授業を計画し、より具体的に生徒が進路選択できるように、進路指導部と協力して進める。

新学習指導要領に向けた教育課程の最終確認並びに準備を進める。

グローバル探究科として、次年度の学校設定科目の計画並びに準備を計画的に進める。

成績処理並びに学籍管理システムの導入と、全教職員に向けた研修を実施する。

3 本年度の自己評価結果の総括

開校 3 年目ということで、3 年生については 1 学期から調査書や成績について教務としては対応に追われた。教務システム上は、慣れてきた点もあり問題に対して対応していくことができた。

また、新型コロナウイルス感染症に関わる出席停止や、短期留学に出る生徒についての成績の対応等、新しく対応をしていかななくてはならない状況の中で、全教員に周知徹底することができた。

IB についても、11 月の最終試験を教務と DPC（ディプロマコーディネーター）とが協力して対応を行い、無事にディプロマの資格を取得する生徒を出すことができた。

一方で、行事としては、ほぼすべての行事が予定通りに実施することができずに、直前まで対応に追われることが続いた。宿泊行事についてはすべてキャンセルせざるを得ない状況となった。次年度は、3 学年中ほとんどすべての学年で宿泊行事が予定されるので、学年、管理職と共に準備を進めてく。

(様式1)

大阪市立水都国際高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標 <生徒指導部>

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

生徒指導部では、水都生としてより良く生活するための方針をまとめ、周知と呼びかけ、振り返りを行っていく。現状、地域住民並びに外部の方からの苦情が多い現状に対し、さらに踏み込んだ指導が必要となってきた。自由の背景にある責任について考えることができていない、また、社会情勢を俯瞰してみることができていない状況が露呈しており、改善していく方策を早急に検討し、実践していく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

様々な背景を持つ生徒、教職員が本校の学校生活を通して共通のルール・マナーを守り、また本校ならではのルールを生徒主体で作成していくこと目標にしている。生徒が、学校の一部を創ることに直接かかわる機会を設け、自治の意識と決定のプロセスを直に経験できる仕組みを作っていく。

生徒会作成をはじめ、生徒一人一人が、学校を創り上げていく経験をすること、また、この経験を通して、協創力を磨いていくことを目標とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

一人一人の違いを認識し、許容し理解できるようにしていく。

学校独自の校則ではなく、社会におけるルールやマナーを自覚し、自分たちの行動を振り返るようにしていく。

自由と責任について考え、理解し、行動できるようにする。

生徒会組織を生徒と教職員で協働して作り上げる。

生徒会を中心に水都国際高校の生徒の行動指針を作成し、教職員・生徒が一丸となって取り組み、地域の方々にも伝え、学校への苦言の件数を減らす。

- ⑥ 水都国際高等学校の生徒・教職員の素行等について、アンケート等を活用して地域の方々からフィードバックをもらえる仕組みを作り、学校運営に役立てていく。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は、高校 3 学年がそろい、生徒数も開校当時に比べ 3 倍となった。年度初めから地域の方々や、公共交通機関内での生徒の行動についての多くの苦情を受けることとなった。新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組む期間であったことも合わせ、新型コロナウイルスがまん延する前の期間よりも、厳しく行動を制限する状況があったとはいえ、本校の生徒のマナーや行動については、改善すべき点が多くあった。これに対し、登校時に管理職が登校指導を、下校時には全教員で下校指導を定期的に行うことにより、少しずつではあるが改善を進めている。

また、本校初の処分者を出すこととなった。これは「自由」を誤った形で理解していることが発端ととらえることができた。課題として、深い思慮と背景をとえる洞察力を伴う、責任が隣り合わせとなっている「自由」についての指導の必要性がより明確となった。

これらの事象を受け、次年度に向けて、生徒指導部と有志生徒を中心に、水都生らしくあるための「Suito Model」の策定を進めており、水都生として社会の一員として誇りをもって行動していくための指針を取りまとめている。

(様式1)

大阪市立水都国際高等学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標 《進路指導部》

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

社会に向けてどのようなことをしたいか、していきたいかを明確に持っている生徒もいる反面、まだ考え始めたところの生徒も存在している中で、まずは自己理解を深め自分に必要な経験やスキルを見極めていく時間を設ける必要がある。そのための、様々な職業に関する講話やキャリア教育を計画していく必要がある。

進路に関しては、海外大学に関しては、各国ごとの進学方法等、情報を収集していく必要がある。留学を希望し英語の運用能力を積極的に伸ばしていこうとする生徒も一定数存在しており、これらの生徒に対する進路指導をどのように実施していくかが課題となっている。

しかしながら、国内大学への進学希望者も少なくないことから、具体的な国内大学進学に向け、戦略的に生徒に合わせた進路指導を実践していく必要がある。

中期目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

進学に関して、国内並びに各国の大学進学の方法や、費用等の詳細を把握し、進路指導の方針を創り上げていく。IBDP を活用した入試に関する情報や、世界の情勢を把握し、IBDP 認定シミュレーションを踏まえ、具体的な指導方法を、検討していく。

上記と同時に、新しい大学入学共通テストに向けた準備や、対策を検討し教科ごとの模擬試験をはじめ、英語力をはかる外部試験や、科目外の知識やスキルをはかる外部試験等を実施し、学力面と精神面との両方を成長させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

一人一人の違いを認識し、自分についてより深い理解を促していく。

自分の取り組みたいこと、チャレンジしたいことを発見していき、能動的に生徒が学習、協働していくための仕掛けづくりを教務部と協力して実践していく。

日本の大学への推薦等の学内のルール策定を進めていく。

できるだけ多くの海外大学進学の情報収集し、どのように進路指導をしていくかの方針を作成していく。

3 本年度の自己評価結果の総括

1 期生が高校 3 年生となり、進路が定まってきた。新型コロナウイルス感染症により、社会の状況が変化するとともに登校するのも難しい中で、入学当初の海外大学進学を目指す生徒が、国内大学への進路変更が相次いだ。しかし、総合型選抜を中心に推薦や新しい形式の入試において、本校生徒は素晴らしい成果を残した。また、IB コースの生徒も IB の最終スコアが出る前に総合型選抜で大学の合格をとる生徒が多く出た。特筆すべき点は、様々な入試システムの中で近畿圏の関関同立だけではなく、本校の教育と親和性の高い国際教養大学や立命館アジア太平洋大学等へ総合型選抜で合格したことである。水都の教育が目指している先にある大学に、本校生徒が合格したことは非常に有意義であると考えられている。

一方で、共通試験など一般受験においても進路の自己実現が達成できるように、高等学校の教育カリキュラムについて目標や指標を改めて見直し、次年度以降に取り組んでいく。

平成3年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 水都国際高等学校 学校協議会

1 総括についての評価

【評価について】

運営に関する計画（自己評価総括シート）のとおり

【学校運営状況】

緊急事態宣言下やコロナ感染拡大期においてオンライン授業を展開し、登校不安を抱える生徒のためにハイブリッド授業を行う等、より生徒の状況に応じた対応を充実させ、授業を展開している。また、助成金取得によるプログラム展開として、生徒自らがSDGs達成に貢献し、社会課題を解決していくプロジェクト型学習「水都アクションプロジェクト」を実施している。先進的な取り組みを行う事で、全国的に注目される学校となっている。生徒・保護者の期待に応え信頼される学校となるよう継続的な研鑽が必要である。

【自己評価について】

自己評価はもう少し厳しく評価すべきである。今年度、中学1年生から高校3年生までの全学年が揃い、初めての卒業生を送る事ができた。これからのコロナ後の海外進学や国際交流、2025年の大阪万博に向けての地域との連携、高校生が増えていく中でのより一層のWell-Being部の重要性を再認識し、より良い学校づくりを期待する。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

【学校園の年度目標】

1. 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。
2. 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の70%以上にする。

【評価】

- ・運営に関する計画（自己評価総括シート）のとおり
- ・年度目標は、中期目標に従い、より具体的な取り組みが計画されていたが、今年度はコロナ禍においてオンラインでの取り組みが多く、実際の対面での取り組みができていない。
- ・中高一貫校として、大学との連携も視野に入れた高校生の取り組み内容などを中学生にも共有する事で中高一貫教育の特色を生かしていくと共に、キャリア教育を展開していく事が必要と考える。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

【学校の年度目標】

- 1 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。
- 2 年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。
- 3 年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。
- 4 年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。
- 5 グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の TOK、English B を中心に、IB 教育の要素を取り入れた実践をしていく。
- 6 グローバル探究科として、IB のカリキュラムと学習指導要領とが両立するように、教育課程を編成し、実践していく。
- 7 英語力の指標として、CFER の B2 レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の伸長を目指す。
- 8 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題

解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80%以上にしていく。

【評価】

- ・運営に関する計画（自己評価総括シート）のとおり
- ・年度目標は、中期目標に従い、より具体的な目標設定がなされており、今年度は概ね目標を上回って達成されたと認める。
- ・本校の特徴である英語力について、スピーキング・ヒアリング力は秀でたものとなっているが、基礎能力である語彙力・文法力の向上に日本人英語教諭の研鑽が必要である。
- ・非認知スキル、問題解決能力の育成は探究授業を通して実践できているが、特に基礎学力の部分で数学においては、学習する言語を日本語の割合を増やし、基礎的理解を徹底する取り組みを行い、学力向上の成果が出る事に期待する。
- ・ICT を用いた授業は先進的に取り組まできているので、今後大阪を牽引する学校として活躍する事を期待する。
- ・IB スコアの数値目標を次年度以降掲げながら、IB 部を組織する事でより専門的な教育内容を推進し、それが学校全体において反映される事を期待する。

3 今後の学校園の運営についての意見

【中期目標について】

- 「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」コロナ禍において上記のようにオンライン授業やハイブリッド授業を展開し、生徒のケアを行ってきている。さらに踏み込み、対面で行う教育活動の意義や必要性、生徒への影響について引き続き議論を行う必要がある。
- 「心豊かなに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」大学入試改革の見送